第３０回日本キャンプミーティング　実践事例報告

大型野生動物との遭遇を避ける自然体験施設の安全管理

指定管理者 公益財団法人 日本アウトワード・バウンド協会
尼崎市立美方高原自然の家 とちのき村
発表者　西垣　幸造

実践の目的

施設周辺で暮らすクマなどの大型野生動物との遭遇を避け、
人の食べ物や生ごみを野生動物に食べさせない環境を維持する。
職員・地域・利用者が連携し、安全な自然体験活動を支える。

01 背景と課題

自然豊かな施設周辺は、大型野生動物の生息地である。人為的な食物資源への誘引と、森や山道での偶発的な遭遇を防ぐ必要がある。

02 誘引を防ぐ環境管理

食材・ごみは管理棟やボックスで管理する。食べこぼし、お菓子の包み紙、洗い場の生ごみを残さないよう利用者に協力を求める。

玄関は引きドア式。併設の自動ドアは施錠し、使用していない。

03 監視と地域との連携

モニタリングカメラを６か所に設置し、定期的にデータを回収・確認する。

地域の目撃情報

香美町役場小代地域局と目撃・捕獲情報を共有。

地域の目撃情報を事務室前、ホームページで確認できるようにしている。

2026年10月13日、小代区貫田・茅野地区の集落付近（施設から約７～９km）で目撃・痕跡情報あり。

連携機関の重要性

クマの最新の生息状況や対応策、研修指導など
　研究機関（兵庫県立大学、兵庫県森林動物研究センター）

クマなどの目撃情報
　地元自治体（兵庫県　香美町役場小代地域局）
　警察（兵庫県警察防犯ネット）

04 活動前と目撃時の対応

ナイトハイクやオリエンテーリングの開始前に、公用車でコースを巡回する。活動中も巡回を行う。
目撃情報があれば利用者へ速やかに共有し、現場と周辺の確認・巡回を強化。利用団体と協議し、活動変更などに柔軟に対応する。

出没した時の対策

第1区分：香美町小代区で目撃、痕跡を発見
　情報の収集に努め、施設利用者への情報共有と行動への注意喚起、ホームページでの情報公開

第2区分：施設周辺へ出没、痕跡を発見
　誘引物の除去、進入防御（電気柵等）、追払い強化、活動の変更

第3区分：防御や追い払いによっても執着するクマが出現
　学習放獣を前提に関係機関に捕獲依頼

第4区分：学習放獣の効果がなく、再び出現
　兵庫県、香美町と協議し、人と共存できない固体と判断し、処分を目的とし捕獲依頼

現場で共有する対策



施設で使用する利用者向け案内

05 利用者への周知と職員装備等

森や山道ではなるべく一人で行動しない。鈴やラジオで人の存在を知らせる。熊スズ等は事務室で貸し出す。

職員は熊スズ・ベアスプレーなどを携行し、使用訓練も行う。必要に応じて轟音玉や屋外放送による追い払いを実施する。

ツキノワグマに関する正しい理解とその対応策の普及
　ツキノワグマ研修会の実施
　　対面講座、他施設との連携によるオンラインによる講座

職員研修
　　追い払い術研修会への参加と轟音玉使用のための資格取得
　　ベアスプレー使用研修



職員の携行装備
熊スズ、スプレー、
トレッキングポール等

食物管理・監視・巡回を日常の運用に組み込み、利用者との情報共有につなげている。

取組の継続と今後の課題

開館以来約30年、利用者と職員が環境管理を継続。
今後は目撃情報や対応の記録を蓄積し、運用の見直しに活用する。

全国のクマ被害に関する影響を軽減するために、正しく理解し対応するための継続的なクマ研修が必要。

また、毎年変化するクマに関する状況を、公的研究機関から最新の情報の入手し、情報共有をする。